

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム第 21 回会合 発言録

2022 年 7 月 11 日

【加藤】時間になっておりますので、スタートさせていただきたいと思います。今日は飯田様が御参加ですので、よろしければ最近の日本政府としての準備状況の進捗等、御説明いただければと思います。よろしく申し上げます。

【飯田】皆様、お疲れさまです。すみません、御報告できないことがずっと続いていて申し訳ありませんでした。最近の状況で申しますと、まだカチッと決まっていないので、内輪の打合せということでお聞きいただければと思いますが、今年の秋には IGF の開催に関わるアセスメントのミッションというのがもともと来ることになっていまして、これは、開催国は必ず前年に視察を受けることになっていて、会場の条件とか、あと関係者の準備状況とかを聴き取りをして、最終的に国連側で、この国で、この会場でやって大丈夫という判断をするためのものです。これを今、受入準備に入っています。

できれば秋、なるべく早い時期に受け入れて、その後の準備がスムーズに進むように。スムーズといってももうぎりぎりになってきていると思いますけども、少しでも加速できるように、なるべく前倒ししようという話を国連側としていまして、このミッションが来たときには、また必要に応じて関係の皆様とも御面談いただくような場合も出てくるかもしれないと考えています。もちろん、いろいろ日程にもよりますので、まだ予断ができるわけではないんですけども、御相談しながら進めたいと思いますので、よろしく申し上げます。

それから国内のほうの体制ですけれども、いろいろと私どもの準備が遅れていたせいで、誤解とは言いませんが、いろいろな解釈とかいろいろな御検討をいただいていたかと思ひまして、大変申し訳なく思いますけれども、もともと、当初お話ししたとおり、国内、オールジャパンでの受入れ体制、あるいは準備体制のための、協議会と呼ぶか、実行委員会と呼ぶか、何とかフォーラムと呼ぶかはまだ決まっておられませんけれども、マルチステークホルダーのそうした体制をつくるということは最初から考えておまして、これが総務省の皆様も御案内のような、いろいろな事情により大幅に遅れて、しかも凍りついたまま 1 年以上たってしまったもので、皆様には、これはこのままではいかんという危惧の念を大いに抱かせてしまったと思うので申し訳なかったんですけども、これも夏の人事異動終わりました、新しいデータ課長や、もちろん局長クラス以上も固まっていますので、このメンバーで、省内のまず体制をつくり、そして、その体制が国内全体の準備体制を支えるという意味で、国内のいろいろなステー

クホルダーの方々に御参画をお願いしながら受入れ準備をする体制を早急につくりたいと思っています。

そのときには、この活性化、活発化チームがどのようなステータスであっても、できれば1つのグループとして御参加いただいて、特に、何コミュニティというのが一番いいのか分かりませんが、インターネットガバナンスの専門家のコミュニティとして、サブスタンスのところで一番貢献していただくということをもともと期待しておりましたので、この今までの議論や取組は、十分それに見合うものになってきているのではないかと、僭越ながら思っていますので、ぜひまたそれを、形にして少し示せるよう、まだちょっと紙でお示しできる状態ではないので、もうちょっと時間はかかりますけれども、今、議論を始めていますので、それをお示ししながら、皆様と全体の準備をいよいよできるように、近々お示しできるように努力していきたいと思っています。

ということで、何かまだふわっとしているとは思いますが、取りあえず国内の体制、それから国連側との準備の進捗ということで進めておりますので、また、より具体的にお話しできるように頑張ってみます。引き続きの御鞭撻、御指導をよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

【加藤】 どうも飯田さん、ありがとうございます。皆さん、御質問、御意見等ありますでしょうか。本田さんの手が挙がっていますので、本田さんお願いします。

【本田】 飯田さん、お疲れさまです。本田ばかりいつもうるさいこと言うと言われたらかなわないんですが、もう去年の10月ぐらいかな、皇族が結婚されるとか言っていた頃、思い出しますが、その頃からずーっと言ってきているんですが、IGF へ向けての体制整備、国としてまずつくってくださいということを申し上げているんですが、一向にできない要因というのは何なんですか。

それは飯田さんお一人を問い詰めるつもりはさらさらないんですけど、僕も個人的に外務省に電話して、OECD 課に電話してみたんですけど、やっぱり誰も対面が決まっていないと言うんですよ。問合せのあれが決まっていない以上は責任者というか、連絡の PoC すら決まっていないとなると、我々誰に言ってもいいかも分からないし、誰を巻き込んでいいかも分からないし、そうすると、我々のほうの IGF に向けての活発化チームもそうだし、そしてその先を見据えた、IGF を日本でもっと、よりマルチステークホルダーに広げていこうという動き自体もやりにくくなるし、何をやっても前に進まないのはやっぱり、申し訳ないけど、本来は民間の力でやるべきところが政府におんぶに抱っこになっているだけではないと信じたいですが、一義的には、日本ではやっぱりそういう政府の動きが全く見えてこないと前に進んでいけないというのがおかしいところで、おかしいなとは僕も思うんですけど、やっぱりそれは現実なので、どうしてそう体制づくりに時間がかかるのかというのが1点目の質問。

それから 2 点目、何か IGF、イベント 2023 に向けて協力をしてくださいみたいなペーパーが、前村さんから出ていましたけど、それは総務省と 1 日、JPNIC の間で協議をされた話なんですか。そうだとするに仮定をすれば、協力をしてくださいはいはいけれども、逆に皆さんは私たちの IGF 活動活性化チームというところにどう関与していただけるのか。逆に皆さんのほうからどういうものがあるのか。

別に人出せ金出せとか、そういう問題ではなくて、お互いギブ・アンド・テイクだと思うんですね。私たちだって、ある程度手弁当でやっている人もいるし、本業じゃない人も本業の人もいますし、いろいろな方が入っていらっしゃるんで、本来であればこの会議というのは 16 人とかじゃなくて、50 人とか、200 人とか入って、みんなで一斉に情報共有できたほうが話が早いんですけど、結局、回を追うごと、あの人が消え、この人が消え、だんだん来なくなって、みんな。そうなるのは、やっぱり話が前に進んでいかないからだと思うし、体制づくりをしようと言っているのに、結局総務省の言っていることが、総務省を含めた全政府ですね、日本政府全体の話が尻すぼみでしかないんで、今さら協力してくれと言われても、何か気持ちの面で、協力、はいはい分かりましたという感じにはならないし、じゃあ、それも全部、何ですか、いわゆる、僕ボランティアという言葉あんまり好きじゃないんですけど、ただでやってくださいということですかということですよ。

その辺のところ、2 点お伺いをしたい。それから、飯田さん、申し訳ないですけど、いつも口頭報告が多いんですけど、口頭のをまとめるよりは紙に一枚物でもいいもので、プレゼンと言わずとも、1 枚物でも、メモレベルでも構わないので、事前に出していただければ大変助かります。それ読んでから、このところどうですかという御質問もできるし、逆に後で山崎さんが書き起こすのにもあったほうがいいと思いますので、それは別に飯田さんが作らなくたって、部下が作ればいいことだと思うので、その辺りは工夫をしていただきたいと。2 点とプラス 1、要望ということで、私からです。以上です。

【飯田】すみません。厳しい御質問ありがとうございます。ずっと遅れてきた理由というのは、なかなか明確にお話ししにくい部分もあるのですが、ひとえに総務省に責任があると思っていただいてもよろしいかと思います。結局、他省庁、外務省や経産省にお尋ねいただいたとしても、基本的に政府内で総務省が窓口になって調整しているので、まずは総務省に聞いてくださいということに最後はなるのだらうと思いますので、そういう意味で、やります、やりますとやっていかなかった。別に個人攻撃をされているとも思いませんし、私どものところに責任が実際にあると思っています。

これ自体は、言い訳をすると切りがないので、ちょっと具体的にお話ししにくい部分もありますので、いろいろな事情が重なったことだということですが、1 つは業務的に申しますと、今年から来年にかけて大きな会議が大量に来る状態になってしまっていて、ちょっと人員や、それこそ体制の手当が間に合っていないところがございます。大変、無責任な話で申し訳ないんですけど、AI の会議あり、G7 あ

り、IGF ありということになりますので、ただ、それ言っていると何もできませんから、人もメンバーも固まったところで、これから本当に進めたいと考えていますので、何とぞそこは御理解のほどをいただければと思います。

総務省から何してくれる、できるんだということについては、何でしょうか、協議会なり体制をつかって、どういうふうに準備を進めていくかの中で考えるしかないわけですけど、当然、活動の原資や人員というのを、手当をしながらやっていくということで考えていますので、会議を開催する、その瞬間だけじゃなくて、その前の、どういう準備が要るかということについては、例えば今年の IGF の状況については、調査を発注して、どんなセッションがあって、どういう議論があったかということ、一通り皆さんの御協力をいただいて調査していただきましたけども、あれは、私どもの予算の中から原資を出してお願いをしていますので、そういった形も含めて、今後、より手厚くというか、加速かつ量を増やして協力体制が進められればと思います。

それから、書類についてはおっしゃるとおりで、本来、資料なり、ポイントだけでも出せるといいんですが、すみません、役所はなかなか書いたものを出すのが、ハードル高い世界もちょっとありまして、今後工夫していきたいと思います、今まで、そういう意味では、やっぱり作業が後手後手に回っていたのも事実ですので、少し心がけていきたいと思いますので、御容赦とまた御協力いただければ幸いです。以上です。

【加藤】 飯田さん、ありがとうございます。ほかの方、御質問ありますでしょうか。皆さんよろしいですか。じゃあ、本田さんから 30 秒で 3 質問ということですので、手短にお願いします。

【本田】 飯田さん、ありがとうございます。何でも関係というのは昨日の今日でできるものじゃないんで、いろいろなことをしていただきながら、もちろん政府として御尽力いただいている部分、飯田さんとして、多方面、御苦勞いただいているというところも表に見えない部分もあろうかと存じます。ただ、スキームの問題で、やっぱり発注される側と発注する側というのは、役所内でもそうだと思うんですけども、我々も別にお金がどうのという話じゃなくて、やっぱり受けるなら受けるで、この前みたいなレポート書きの仕事のように、きちんと受けてやったほうが、お互い責任も出るしいいと思うんですね。

全部が全部、それはお金出さないとやりませんなんていうことは毛頭言うつもりありませんけれど、やっぱり皆さんも、それぞれ忙しい中でこうして集ってくださっているわけだし、その中で専門性を発揮するとか、具体的なイベント運営とかというところがあれば、我々本来、僕の考えだけで言いますと、我々がきちんと組織として組成できれば、どこかのサービス何とか委員会みたいなのは違うんですけども、きちんと社団法人としてお仕事を受けて、その中でイベント事務の委託であるとか、イベント準備事務とか、広報事務とか、何とかそういうふうに理由をつけて、きちんと予算化してお仕事いただ

ければ、よりお話も通じやすくなるんじゃないかな、お互いに責任がきちんと明確化されるんじゃないかと思っているんです。

そもそも組織をつくる話を後回しにしちゃって、はい、実行委員は誰、協力してください、協力してくださいと言うけど、じゃあ何をどう協力したらいいのというところが余計懐疑的になってしまいましたということをお伝えしているの、そもそも受け手側の組織が必要じゃないかという点については飯田さんの御意見を伺いたく、御認識を伺いたく。

【飯田】いろいろな面があると思うので、一概に言えないかもしれませんが、もともとこの活動を皆さんで頑張っていた最後の目標としては、日本のインターネットガバナンスのコミュニティが1つにまとまるというのは、変な言い方ですけども、活動をより活発化して、組織化というか、国を代表して、日本のIGFコミュニティの代表はここですというような形になって機能していただくとというのが最終的な目的だと思っていますし、それが、2023年を1つの大きなきっかけにして進めばよりよいというここでスタートしていただいたと思っていますので、どの段階で、組織、具体的な組織、あるいはどういう形の具体的な組織がいいのかというのは、考え方いろいろあるかもしれませんが、当然、引き続き追求していただくものだと思っています。

また、いろいろな契約とかということを見ると、その形があったほうがやりやすいという面もありますので、可能であればもちろん、そういった形を何らか取っていただいて、それこそ責任関係とか、取組の仕方がはっきりしてくるとするのは、より望ましいだろうと思います。ただ、いろいろなテクニカルな問題とか、皆さんのお考えもあると思うので、そこは我々としても、皆様の最後は主体性にお任せしたいというところではございます。

【本田】どうもありがとうございました。

【加藤】飯田さん、ありがとうございます。今、最後の点、すごく重要な、このグループに重要な点、言っていたので、確認ですけれども、先ほど言われた、いずれ協議会なり実行委員会なりフォーラムなりを総務省さんのほうで御検討というのは、これはあくまで2023年を実現するために、国内での主催を実現するための実行委員会という御趣旨ですね？それと今言われた、活発化チームが1つにまとまって、今後組織化して、日本としてIGFの活動を広めていくというのが最終目的だとすると、2023年がそのステップだとして、継続して、その辺、総務省さんも御協力いただけるということには変わらないということですね？

【飯田】その通りだと思っています。もちろん私1人のあれで決まるものでは。

【加藤】もちろんです。考え方としてですけれども。

【飯田】当然そうあるべきだと思っていますし、担当者たちもみんなそのように望んでいると思います。

【加藤】ありがとうございます。そこがこの後、前村さんからも、国内での活動をもう少しまとめていくための検討というのをさせていただいているわけですが、そういうことにも関係するので、ありがとうございます。

ほか、皆さん、御意見いかがでしょうか、御質問ございますか。今日はあれですか、飯田さんはまだ、この後もお残りいただけるんですか。もし後で質問とか御意見いただくことがあれば。

【飯田】多分、最後までいれると思います。

【加藤】ありがとうございます。

【飯田】よろしくお願いします。

【加藤】山崎さん、今日、河内さんはおいでになっているんですかね。MAG で出張されてたんだと思うんですが。

【山崎】いらっしゃると伺っていたんですけど、まだいらっしゃっていないですね。

【加藤】MAG の状況とか、もしその辺、引き続き恐縮ですけど、飯田さん、MAG のほうの状況とか何か、飯田さんから伺うようなことございますか。もし河内さん、後で参加されれば伺うとして。恐らく今回、MAG のミーティングでも、いろいろなセッションをどうまとめていくかという、前回御報告いただいたことをかなり詰めて大変な作業をスタートされているのかなと思うんですけど、何か御承知であればお願いいたします。

【飯田】実はちょっと、私、MAG に全部出ているか自信がないですけど、この時期は各ステークホルダーから出てきたセッションの提案をみんな割り振って、評価をつけていると思います。

【加藤】でもそうですね。

【飯田】もうすぐ結果が夏に出てくるはずなので、多分、持ち寄って、お互いに利益相反ないかとか、いろいろなことをチェックして、取りまとめをして結論を出す段階だと思うんですが、実は私自身は割り振りが来ないんですね。正式に選ばれた MAG メンバーではないので、議論に参加はできるんですけど評価はできない立場になっています。ですので、ちょっと今、評価自体がどういう状況にあるかまでは把握ができておりませんが、今その評価の途中段階だと思います。総務省からも複数希望を出しておりまして、もしうまくいけば、皆さんにも御参加いただけるようにお誘いしながら、スピーカー

を選んだりしていこうと思いますが、選ばれないことにはどうしようもないので、またちょっと結果を待っているという状態でございます。

【加藤】ありがとうございます。総務省からは2つ御提案されたわけですね、セッションを。

【飯田】いえ、総務省から、ちょっと無理やりですけど3つ出しています。

【加藤】3つ、そうですか。

【飯田】ええ。2つ残ればいいくらいで3つ出しています。

【加藤】ありがとうございます。あと、前回も立石さんが1つ出されたということで、大体それぐらいですかね日本からは。ほかに御存じの方があればあれですけども、幾つかは出ているということで、やっぱり日本から、今回ある程度参加することによって来年につながるという意味で、ぜひ選ばれるように祈っておりますけれども。ありがとうございます。それじゃあ……。

【飯田】割り込んで申し訳ないんですけども……。

【加藤】ええ、お願いします。

【飯田】日本で主催しなくても、パネリストとかスピーカーとして参加する余地がありまして、ある意味、来年のホスト国という立場を考えると、日本のスピーカーを入れたいと思うセッションオーガナイザーが結構いるんじゃないかと思います。ですので、もしかしてどれくらい、別に私のところに全部来るわけではないのであれですが、皆様のところに何か問合せがあったり、あるいは私のところに来た場合に、これはと思うものもあれば皆様に御紹介したいと思いますので、ぜひ積極的に御参加いただければありがたいと思います。

【加藤】ありがとうございます。そうですね、じゃあそのように、もし情報があれば共有していただくということでよろしくお願いします。

じゃあ MAG からの御報告は、もし河内さんが後で入られれば、また追加の情報を伺うということで、ここまでとしたいと思います。

次に、アジェンダに沿って、秋のイベントの準備状況について、これは上村先生いらっしゃいますか。

【山崎】まだいらっしゃらないようなので、飛ばして先に次に……。

【加藤】そうですか、堀田さんも今日は御欠席ということなので。

【加藤】 それでは上村さんが参加された段階でそちらに移るということで、アジェンダの順番に沿っていきますと、今、ちょうどその話に触れた NRI の組織枠組み、仕組みについてというところ。これは前村さんからお願いできますでしょうか。

【前村】 画面共有、こちらからさせていただきます。前村でございます。これは、いつだったかな、多分昨日、資料こういうのを出しますということでお見せしたもののなんですが、それを皆さんにちょっとまずは見ていただきながらということをやっていると思います。もう少し大きくしたほうがいいですかね。

これはちょっと御報告ということで、山崎にこれ投影してもらえばいいんですけども、何で私が投影しているかという、最後のところ、こういうふうに書いてあるんですね。「そこで、今後以下のような方針で本件を進めたく、確認をお願いします」としているんですけども、ここでパンとそんなお願いが通るほど、意識の統一がどうもできなさそうな感じがしておりまして、適宜、言い方をもう少し、何でしょうね、緩くするというのか、そんなに決まってないふうにかきなきゃいけないかなという感じに思っているところがありまして、ということをお願いしながら、一通りこの資料を説明したいと思います。

設立発起人の候補はどういう方がというのは、前回の会合……。ちょっと待って、今回は 21 回ですね。すみません、20 と書きちゃって。21 回ですね。

前回、20 回の会合でも御説明、お話しをしたとおりであります。それで第 2 ポツですけども、活発化チームで進めていることというのは、これは確認なんですけども、国内 IGF 活動の運営団体の設立をしたいということ。つまりは国内 IGF 活動の運営体制の整備をしたいということです。というのを今までのモードというのか、今までの活発化チームの議論の中では、国内 IGF の体制を確立して、よって IGF2023 に集う世界中のインターネット関係者をお出迎えしたいというふうな感じのことも考えていたんですけども、今回お話をし始めるに当たって私が感じていることは、設立発起人の候補となり得る企業、団体というのは、来年にもう迫っているんですね、IGF2023 というのは。日本に招致をした大規模国際会議が滞りなく開催されるかということをお気になさっているということで、まず、そっちが先じゃないかというふうなことをおっしゃるようだという事なんです。

つまり、何でかという、開催に当たり協賛などを招請されることが常であると。話来てなかったら予算化しないと。来年から払う金ないしとか、そういうことなわけです。というふうなことをお気になさるんだなということが分かり、そしたら総務省さんのほうでどうなっているのかが気になるということになるわけですが、そのときに、打合せをさせていただいて、飯田さんのところ、あとは今いらっしゃるんですけども、データ課、西潟課長にもお話を伺ったりなんかしたということなんですけども、そうすると、先ほど飯田さんからもありましたように、IGF 開催に当たって民間からの協賛も得る必要があると。したがって、実行委員会、協議会という言い方もありましたけども、この文書の上では実行

委員会と呼ばさせていただきます。名前はどうかよく分からないんですけどもということで、実行委員会というふうな組織を立ち上げていくと伺いました。ちょっと前ですね。

この場合に、運営団体と御参画いただきたい企業や団体というのは、とりもなおさずインターネットに関する問題をいろいろとお話しをするという場合に御関心を持つということで、IGF2023に協賛をするというところも恐らくはかぶるんですね。企業や団体というのがこの2つ、運営団体というのと、IGF2023の協賛は、大きくオーバーラップすることは明らかであろうと。そうするとこの2つ、IGF2023というのがあって、それと、国内IGF活動の運営体制というのがあってというふうなことをばらばらに言っても、あれ？ この前同じようなこと聞いたけどと言われるような感じがすると。これは一緒にしてお話しをするほうが混乱が少なくていいだろうと思われますということ。

もう一つは、さらに言うと、2ポツ目で言ったように、IGF2023が差し迫っていて、もう来年じゃないか、それも準備しなきゃいけないんじゃないかということが、恐らくは当面気になるんだろうなと考えると、当座のメインはこちら、IGF2023への協賛と、IGF2023が成功していくための機運を高めるといえるのか、盛り上げる活動をメインに据えたほうが話が分かりやすいと。そしてIGF2023を間近で体験した後であれば、IGF活動をきちんと理解した上で、国内IGF活動の運営体制を構築するというのも話がすごく分かりやすくなるだろうということですよ。

これをなしに、今、何かお話をしようとする、IGFって何なの？国内IGF活動って何なの？みたいなことの説明をしなきゃいけないということでもあります。ということで、流れとしては、IGF2023を成功させるための民間からの協賛のようなどころをやった後に、その後の、何でしょうね、レガシーという言い方、「東京オリンピックのレガシー」みたいな言い方があるじゃないですか。それをやった後に残る、みんなにとっても役に立つようなものという形でやったほうが、はるかにスムーズだと思うに至っているんです。

そうじゃなくて、今、組織化を進めるということは、IGF2023もありながら、その横で、それでは、例えば幾らという予算で、どれくらいの方々に集まっていたらいいかみたいなことを言っていかなきゃいけないというのは、少しプロセスとして円滑ではないかなと思っているということです。

そういう観点で、以下のように私自身、組織化というものを活発化チームの中で担当している私としては、こういうふうに進めるほうがいいんじゃないかなと思って、皆さんにお伺いしたいのが一番最後の3点です。確認をお願いしますということなんですけども、いかが思われますかくらいで今、皆さんにお聞きしていると思ってください。

活発化チームとしての、運営団体設立に向けての活動は一旦休止する。そして実行委員会組成に向けた活動に協力すると書きました。ちょっとこれ読みながら、つらつらと思ったのは、そうは言っても一番下に、フォーラムと運営団体の責任分解などの議論は継続すると書いてあって、これはこれで組織化だと思うので。組織化に向けた議論というのはしてもいいんだけど、ほかの団体に向けた、何でしょうね、国内 IGF 活動の運営団体設立に向けた働きかけというのではなくて、それは IGF2023 関連のものとして働きかけるという感じでやったほうがいいんじゃないかと思うと。運営団体設立に向けた単独の活動は一旦休止したほうがいいんじゃないかという意味合いで①を書いてあります。

2 番目として、もともと我々、運営団体の設立をもって国内 IGF 活動の NRI の運営組織をきっちりと確立することを考えていたわけで、そうすると、そこがちょっと空いてしまうわけで、つまりは国内 IGF 活動の運営組織としては、活発化チームが必要に応じてその任を果たすということでもいいんじゃないかということを書いてあります。細かいことを言い始めると、それって成立しないよという話があるのかもしれないなと思っています。

3 ポツ目、先ほどちょっと言いましたけども、フォーラムや運営団体の責任分解という話もありましたし、あるいは設立趣意書を、もう少し表現を豊かにしていくみたいな話もあったんですけども、こういったことは、必要があれば、もちろん今でも継続していったほうがいいと思っています。

ということで、ちょっと先延ばしにするという感じの印象をどうしても受けてしまわれるんじゃないのかなと思うんですけども、一方で、少し今のままで活動を進行して行って、早い時期に運営団体の設立までこぎ着けるのは相当大変なんじゃないのかなと。順番としては、IGF2023 をちゃんと準備するほうが先なんじゃないのかなと思うに至っております、このようなことを考えていますということを御報告させていただきます。ひとまず以上です。

【加藤】ありがとうございます。御意見、御質問等、いかがでしょうか皆さん。立石さんが、JAIPA 関係中心に、このことをいろいろ検討されてたように前回もお話伺ったと思うんですが、立石さんから追加のコメントとか何かございますか。

【立石】特に目新しいことはないんですけども、一応うちのほうも、組織としても一応オーケー出ましたし、周りの、何だろうな、消費者団体さんとかも一応声がけはし始めまして、まだまだ最終確認まで取れてはいないんですけど、いいですよという、取りあえず説明に行かせてくださいと言ったらいいですよというところまではお話をいただいている状況です。まだ2つくらいなんですけど、もうちょっと連絡すればもうちょっと増えるかなとは思いますが、取りあえず……。

【加藤】それは立石さん、前村さんも、この 2023 を主催するに当たって、協賛とか、会合成功に向けた活動という形でお話しされているんですか。

【立石】そうですね、一応 23 だけど、そこが縁の切れ目ではなくて、継続的にももちろんやりたいんだけど、取りあえず 23 年が目前に迫っているので、いろいろなところでお話をということで、あとは、今ちょっと高校生の ICT カンファレンスというのがあって、そっちもちょっと巻き込めたらなということで調整しているところです。

【加藤】分かりました。ありがとうございます。

本田さんから手が挙がっています。よろしくお願ひします、本田さん。

【本田】私もいつも話が長いと怒られるので、加藤さんに。私もあえて本当に短く言いますが、この文章は、要は言い訳をするエクスキューズのために作ったんですか。基本的に総務省に協力しようということは、協力するという気持ちはもちろんありますが、運営団体の云々、要は社団法人を準備していることとは別の話であるべきであって、全然関係ないものを無理やりくっつけて、何か仕事をしない理由にしたというふうにし読み取れません。申し訳ありませんが。堀田さんの返信をちょっと表示していただけますか、山崎さん。

【山崎】メーリングリスト番号とか分かります？

【本田】分かりません。堀田さんの、この件について。堀田さんは今日お出になれないので、代わりに意見をメールで返信しますというようなことをおっしゃって、結構朝方かな、今日の朝方かな。

【加藤】昨夜すごく遅い時間か何かに出てたんじゃないですかね。

【本田】私の読み取った堀田さんなりの返信は、要するに我々の目的と手段は逆転していませんかということをおっしゃっていたように思います。私たちの目的は IGF 活動の活発化で、そこに、その中間点というか、取っかかりとか入り口というところに IGF2023 を見据えましょうということなんで、はっきり言うと IGF2023 始まってからが勝負というか、始まったのはもうほんの、ろうそくに火をつけた状態なんで、我々はろうそくを準備して買ってきて、マッチも買ってこようという話をしているのに、ろうそくも買わなくていい、マッチも買わなくていいという話になっちゃっているから、それじゃおかしいでしょうという話を私は申し上げてるんだけど。

【前村】すみません、ろうそくとマッチのアナロジーが分かりませんでした。大変失礼ながら。

【本田】だから、もう1回言いますけども、火をつけようとしているところで、どういうふうに火をつけますかと。火起こし器ですか、マッチですか、じゃあどれ、チャッカマンのライターですかとかいう話なんだけど、どの手段を使っても構わないと思うんですけども、火をつけようとしているところへ、やっぱり火をつけるのはやめましょうみたいに言っているふうに何か聞こえなくもないという話です。

ありがとうございます。「コメント1」。リーズナブル……。堀田は、一度方針転換をしたが、元の方針に……。ちょっちょっ、いろいろ映さないでください。再度転換するという説明であれば納得できるかもしれません。このポイントは、なぜ方針転換しなければならなかったのか。理由は何なのか。元の方針にまた戻して大丈夫と判断する理由は何なのか。総務省のやっていることにはしびれを切らして、一旦取りあえず、実行委員会は別としても、組織化のほうだけ社団法人化しましょうということをやったんでしょと。そのことを前村さん中心にしてきたはずですよ。でもこれを再転換するのであれば、少なくとも元の状態を余儀なくされた、障害が取り除かれた、つまり、こう変えた事柄の前提根拠がなくなったことが明示されるべきであって、総務省がやりたいことと我々がやりたいことは、かぶってはいるものの、別の目的なんだからと。そういうふうに堀田さん、非常に合理的に書かれて、私なんかより上手に書かれていると思うんですけど。

【加藤】今日、堀田さんは御出席できないので詳しく書かれたんだと思いますが、前村さんこれ、堀田さんのコメントに対して何か……。

【前村】山崎さん、さっき線表か何か出そうとしていましたね。これですね。この線表で、一番上のレイヤーで、「ホスト政府主導での活動」というのがあって、実行委員会が今、2022年の、カレンダーイヤーだとすると、ちょうどそれを立ち上げようとしているのが7月になっているので、そういった意味では、線表のとおりと言えなくはないんですけども、その前の実行委員会発起人会という形で、こういう委員会をつくり始めますよということが見えないままに、そうですね、その下のマルチステークホルダーの活動の中の組織化というのを議論してきたというのが今の我々ですねというのが堀田さんのおっしゃい方なんだろうと思うんですね。

【加藤】そうですね、この表は1つ前であって、その後、IGFの活発化チームの中で、並行して組織化の議論をして、それが2023年もサポートするんだという流れで今まで進めてきたんだということが、また、この政府の実行委員会に戻るんですかというのが1つのポイントだったと思うんですけど。

【前村】はい。それで、今まで実行委員会ができるもできないも分からなかったところに、実行委員会をつくらうとしていますということを伺ったというのは1つ大きな、実行委員会があって、それに沿って動くという形に設計したほうがいいんじゃないかと思ったトリガーではあります。そういった意味では堀田さんの御指摘は正しいと思います。

【加藤】1つ私から質問なんですけれども、今の流れとして、さっき飯田さんも、組織化とか、可能であればそういう方向に行くのが最終目的だということを御指摘いただいたんですけれども、今回の実行委員会は、どうしても総務省さん中心になって、もう目前に迫った23年を成功しなきゃいけない。それが最大の今、課題になっているというのは、立石さんや前村さんが御指摘のとおりなんだと思うんですけれども、そういうところで、いろいろな実行委員会の発起人の候補の方に話をする中で、23年を成功させ、かつ究極は、こういう活動をもっと広く恒久化することが大事なんですということを同時に訴えて、その具体的な組織化という話はまだ煮詰まっていなくても、そういう形で、進めるということはいかないんでしょうか。

【前村】それは私、全くそのように思っています。全くそのように。

【加藤】そうすると、一旦停止というところが、私もちょっと言葉として、何か唐突な気がしたんですけど。

【前村】そうですね。

【加藤】だから、それは継続検討だけれども、優先順位がちょっと、見え方がちょっと変わったんだけど、それが休止じゃなくて究極の目的に対して、活発化チームはやっぱり究極の目的を追求すべきなんじゃないかなとちょっと思うんですけれども。

【前村】確かに一旦停止、一旦休止というところが、もうやめちゃうのというふうに捉えてしまうとすれば、そうではなくて、IGF2023の準備に向けた活動の中で展開していくというだと思います。ちょっとこの辺は、言葉遣いなかなか、活発化チームをやっている難しいものだなと思いながら、なかなか的確な言葉遣いできないなと思って、日々精進せねばと思っているところです。

【加藤】本田さん、もう一度、手を挙げていらっしゃいますが。

【本田】言葉ってすごい大事で、一旦休止となると、かなりの長い期間休止するのか、それともやめちゃうことも含めて検討するのかみたいな話に聞こえるんですけど、あくまで延期にしたらどうですか。7月だか8月だか、夏ぐらいまでに早くやりましょうやりましょうと前村さん自身がおっしゃったことじゃないですか。ほかの人がやれやれ言っていて遅くなったとかではなくて、前村さん自身が加藤さんと一緒になってやりますと。だから加藤さんもチェアになられたんじゃないですか、経緯としては。よく分からないですけども。

それでやりますと言ったことをやれないんだったら、申し訳ないけど、前村さん、加藤さん連合じゃなくて、JPRSのお2人にお任せしたい、私としては。だってお2人のほうが、ちゃんとこれだけペーパ

一も作ってくださるし、これだけメールにも関与してくださるし、プログラムコミッティも、一旦は、堀田さんはちょっとできないかなとおっしゃっていたけど、無理くりいろいろな予定を継ぎ合わせながらやってくださっているじゃないですか。だから私も別にそれはお願いしたいし、私みたいなへっぽこがプログラムを作るよりは、堀田さんが去年の要領でやっていただいて、上村先生とやっていただいたらうまくいくと思うから、私も降りますとは明言はしていなかったけど、一応放置していたというか、あえて見なかったことにしていたんですよ。

もう別に、リソースの問題でできないなら、JPNIC は別に主導しなくてもよいのでは？ 別に JPNIC がやらないといけないものでもない。本筋で言えば、JPNIC がやっぱり日本のインターネットの、ある意味、根幹の総指揮というか、実働部隊の総まとめのところなので、やっていただきたいのはやまやまなんですけど、できないならできないでやめていただいても構わないと思います。それは全く別の、だってお金さえ出せば、10 万くらい出せば社団法人なんかすぐ作れるんだし、それでお金さえ集めて、1 万円ずつ 10 人から集めてとか、やり方は幾らでもあるんだから、協力的な弁護士さんとか司法書士さんを見つけてきて、行政書士さんかな、社団法人をつくるだけなら簡単なので、別にその後の話はまた、追々お金を集めるとか何とかはゆっくりやればいいので。

箱がないことには総務省からお金をもらうこともできないし。お金もらうというか、仕事を受注することもできないし、我々の意識合成のところも、あくまで任意組織というか、そもそも規約もあるんだかないんだかよく分からない組織で、ただ、毎日毎日、3 週間ごとにワーワー言っているだけで終わりになっているんで、言い方はちょっと語弊ありますけど、厳しい言い方になると、あまり前に進んでいないというのが私の見立てであり、イー・アクセスの、名前忘れちゃったけど、社長の方の見立てじゃないですか。だからあまり来られなくなっちゃったじゃないですか、小畑さんも。

【前村】言葉遣いの問題に関しては、一旦休止というのがミスリーディングなのであれば、それでもいいですね。延期で。

【加藤】先ほどの前村さんや飯田さんのコメントから考えると、当面の強調すべきが 2023 年なんだけれども、団体設立というか、組織化、飯田さんは IG のコミュニティーが 1 つにまとまる。そういう意味での組織化の活動は継続して、スローダウンすることになるかもしれませんが、スローダウンしながらも継続して行い、総務省さんでやられる実行委員会の活動とも連携するというのが実態かなという気がするんですが、いかがですか。

【本田】延期でもなくということですね。

【加藤】延期でもない。

【本田】 はいはい。

【加藤】 だから検討はやりますと。ただ、延期というのは、実際、法人化する日が延期されるとか、そういう話ですけど、それは別に、もう少しスローダウンすればいいわけだね。ただ、検討はこの活発化チームの中で、今後も法人、組織化の議論というのは継続してやっていく項目なのかなと思っているんですけど。

【本田】 はい。

【加藤】 恐らく、今後、総務省さんのほうで実行委員会が立ち上がると、その実行委員会への支援についてもこの活発化チームの中でももう少し議論を積極的にしたほうがいいかなという気がしますけれども、いかがですか。立石さん、お願いします。

【立石】 その言葉の表現も私もあるかなと。ただ、加藤さん、今おっしゃっていたように、延期というかスローダウンというか、私もいろいろなところでお話ししていますので、当然やめるという話ではなくて、なかなか前に進みづらいという話かなと思います。ただ、さっき本田さんおっしゃっていたように、取りあえず何でも形つくれば良いというの、またちょっとそこは違うかなと思っていて、ある程度コンセンサスをつくった上で、何だろうな、特にこういう団体なので、面倒くさいやつは入れなきゃいいよという話もあるかもしれないんですけど、最初から、俺声かけてくれてないからとへそ曲げちゃう人もいるとは思うんですね。なので、そこはちょっと丁寧にやっておいたほうがいいかなという気はします。以上です。

【前村】 立石さん、ありがとうございます。

【加藤】 感触として、立石さんはいろいろなところと、団体の方々とも話をスタートしていただいているわけですけども、こういう活動が重要だねということを理解していただく1つのきっかけとして、2023年みんなで盛り上げようというふうに見せるのがよくて、その結果、何か組織化なり、日本がまとまるという方向に行くのがいいと。そういう方針ということでしょうかね。

【立石】 それが便宜的には非常にやりやすいかなとは私も思います。上村さん、手が拳がっていますけれども、上村先生、いかがですか。

【上村】 すみません、遅刻しちゃって申し訳ありませんでした。ちょっと採用に関わる会議だったもので途中で抜けられませんでした。大東文化大の上村です。私も立石さんがさっきおっしゃっていたことと同じ、似たニュアンスなんですけど、かなり大きな状況の変化があったということなので、それに合わせて、しかもそのモメンタムをレガシーとして使うということを考えるのは、ある種当然かなと思います。

ましたし、私もやっぱり、もうこの活発化チーム、始まった当初から、あまり屋上屋を架すようなことになるのはどうかなというのを言い続けていたことなので、そういう意味でも無理繰り箱をつくるというのは、負担ばかり大きいような気がします。

ただ、2つ質問がありまして、この実行委員会が、マルチステークホルダー型の構成になるのか、するつもりがあるのかということと、それから、後半は質問というよりは、そういう総務省とのコンサルテーションの場に我々かなり得なかったというのがちょっと、JPNICにはお話しなされたということではあるんでしょうけど、この場はそういうコンサルテーションの相手にはならなかったというのが、ちょっと寂しい思いをしたということでございます。なので、実行委員会がマルチステークホルダー型になるのであれば、それは、私としては応援したいというか、ポジティブに捉えたいと思っています。以上です。

【前村】 上村さん、ありがとうございます。総務省の方針ということであれば飯田さんにお伺いするべきですよ。飯田さん、いかがでしょう。

【加藤】 飯田さん、そうですね、お願いします。

【飯田】 そうですね、検討委員会か諮問委員会か分かりませんが、そのプレワークがどういう形になっていくかは、当然、我々としてはマルチステークホルダーの構成員を持つオールジャパンの取組を目指しています。当然、お誘いしてもなかなか参画いただけなかったり、そもそもあまり存在しなかったりするコミュニティーもあるとは思いますが、あと一方で、今お話しいただいているこの場も、完璧ではなくてもマルチステークホルダーの精神にのっとった場だということも理解しています。ビジネス界とかアカデミアとか、いわゆる普通の、典型的なマルチステークホルダーのコミュニティーをそれぞれ、ある程度お招きした上で、こちらはそのまま IGF、インターネットガバナンスに関する専門家のコミュニティーと位置づけていくつもりなんですけども、そういう形で御参画いただいて、中心的な役割を果たしていただく中で、市民社会とかユースとか、そういう人たちも参画した枠組みを目指していくつもりです。

あと、すみません、JPNIC さんに個別に御相談したわけではなくて、たまたま、ほかの有識者と相談をする場があったときに前村さんもいらしたということで、特段、この議論の枠組の中で、JPNIC さんに個別に全部お話しして、皆さんと窓口にしているということではございませんので、そこは誤解のないようお願いしたいと思います。

【前村】 最後の明確化も含めてありがとうございます、飯田さん。

【加藤】ほかの方、御意見いかがでしょうか。じゃあ、取りあえずここでのワーディングについて、前村さんから何か少しコメントが出ていますが、どんな感じにすればいいでしょう。

【本田】すみません、議長。

【加藤】本田さん。

【本田】私、さっきから待っているんですが。

【加藤】失礼しました。本田さん、お願いします。

【本田】ほかの方も一通り発言をされた後で、私からも再質問がありますとチャットに書いてあるので、ちゃんと公平公正に読んでください。

【加藤】堀田さんお願いします。

【本田】本田です。

【加藤】本田さん、お願いします。

【本田】飯田さんもおっしゃることは、JPNIC に相談したわけじゃないですとおっしゃっているかもしれないけど、結果的に JPNIC の前村さんから一方的な話がポンと来るということは、本来、本筋で言えば、事前相談レベルで前村さんと会話されるのは、ある意味、緊密な関係だなとは思いますが、本来、本筋で言えば、ちょっと総務省としては、実行委員会優先にしてもらえませんかというふうなエクスキューズが、エクスキューズというか、やんわりとしたものが本来は、この場に直接出されるべきであって、何で前村さんから来たのかなと思っちゃうんですね。前村さんは本来それを、組織化する準備をするという係、係というか、そういう音頭を取られていたわけだから、それがどうして急に、急転直下、方針転換するんですかというのは、堀田さんの質問と、ああいうものが出るのは当然のことで、ちょっとやり方、丁寧さに欠くというか、まあ、何というんですかね、ちょっとマルチステークホルダーと言いながら、なかなか、何というんですか、密室政治になりかねない。密室政治だとは言いませんが、密室政治になりかねない要素を生んでいると思います。

そもそも、先ほどの私からの初っぱなでの報告に対する質問の中では、やっぱり受皿、箱として、組織は一応あったほうがいいんじゃないですかと。実行委員会形式にするにせよ、しないにせよ、やっぱりお金のやり取りとか、契約とか、きちんとお互い責任を出すためには、社団法人なり何なりというのがあったほうが、個人の寄せ集めというよりもいいんじゃないですかねという話をしたら、うん、そうですねという感じの御回答だったので、ああ、前向きな回答が引き出せたなと思っていたんですが、

どうも違うんでしょうかというところ。要は、社団法人なり何なり、箱としての組織が必要か必要でないかというところをまず総務省にお聞きしたい。

JPNIC としては、よく分からないんですけど、JPNIC に対する質問としては、JAIPA もそうですけど、どうしていききたいのかというのは、組織的に機関決定されてるんでしょうか、されてないんでしょうか。はっきりしないままで、ぐだぐだ、ぐだぐだ、そういうふうになっているのがどうも解せないんですね、私は。社団法人にしたらやっぱり、JPNIC とも JAIPA とも違う組織ができて、IGF 専門の中でやりましよう。そこに JAIPA もそうですし、JPNIC もそうですし、いろいろなプロバイダーもそうですし、コンテンツプロバイダーもそうですし、一般市民も、いろいろな人がガチャガチャ、ガチャガチャ、入ってこれる。言わばマルチステークホルダーの土俵ができることになるんじゃないですか。

それをやらないうちに、何か分からない、うやむやにしていると、マルチステークホルダー、マルチステークホルダーとか言いながら、声かけた、かけられないとへそ曲げちゃう人もいたと言っていましたけど、声をかけるための、何というんですか、土俵がなけりゃ、ね、土俵がなけりゃ、協賛金ののぼり、たれ幕を出してくださいといたって、日本相撲協会がないのに、どうやって協賛金を出すんですかという話になっちゃう。そのところがはっきりしないので、やるならやるでやってほしいし、やらないならやらないでやりませんと言ってほしいんですけど、何かそこが釈然としないかなと思います。

私の意見としては、とにもかくにも組織化を急いで、その中で、全員に全員声かけて、足並みそろってすぐお金出してもらえとも、出資してもらえとも、メンバー参加してもらえとも限らんかもしれないけど、取りあえず箱をつくって、追々その中で入会してくださいという感じで、法人なり個人なり、だんだん組成していくというのがやりやすい、ある意味、アジャイルなやり方かもしれませんけど、最初はちょっと乱暴なところが出てくるかもしれないけど、組織としてだんだん、だんだん、形のなりを整えていくというのが本来の本筋ではないかなと私は思っているところです。以上です。

【加藤】ありがとうございます。

立石さん、手が挙がりました。

【立石】すみません、本田さんがおっしゃるのも分かるんですけど、それ以前に、それこそ今おっしゃっているアジャイル的なことが分かる人たちはいいんですけど、アジャイル的なことが分からない人たちで、結構大変な人たちがいてですね、この10年くらいでいろいろ私、社団立ち上げてきましたけど、最初に入らないと死ぬまで入らない人たちは結構いらっしゃるんです。それが結構大きな、ここでどことは言いませんが、大きいところだったりすると、後々大変なことがもう一回起きて、もう一回一から作り直すとかという話も出てくるので、そこはもう少し慎重にやったほうがいいんじゃないかというこ

とを申し上げて、とにかく何でもいからまずやって、そこに集まってきましょうよというのが分かる人たち、それこそインターネット的なのか、アジャイル的なのかという言い方が分からないんですけど、理解できる人たちは、私もそれで充分だと思いますけど、そうじゃない人たちが結構いるのが大変で、そこに、すみません、私はちょっと苦労しているというところでございます。以上です。

【本田】本音のところを教えてくださいありがとうございますけど、NTTでもKDDIでも構わんですけれど、一通り声かけて、入るところは入るで、入らないところは入らない、それは後から入らなかつたら、その人が損するじゃ駄目なんですかね。

【立石】どうなんでしょうね。損するで済むぐらいだったらいいですけど、こっちが損する場合もあるので、そこはちょっと、国レベルでの話も若干あると思います。なので、通信業界じゃなければ大変なんですね。通信業界は割と、私はそれでも大丈夫だと思いますけど、そうじゃないところが結構大変らしい。割とそっちのほう言葉に、言葉というか、発言力大きかったりするんで、そこはうまく入れとかなないと、後々大変かなと思います。

【本田】何となくは分かるんですけどね。入れとかなないとこっちが損するから、ちゃんと入れるために準備しましょうということですね。

【立石】そういうことになります。

【本田】それは半年とかじゃできないですか、ぶっちゃけた話。

【立石】そんなにはかからないと思いますよ。ただ、いついつまでにとかと言われると、それはちょっと相手もいることだしということで、なかなかという話ですね、すみません。

【本田】立石さんも、私あまり立石さんのバックグラウンドよく分からないですけど、民間出身の方なのか出向で来られているのか分からないけれども、ある程度パツパツとやらないと、ぐだぐだやっても後から余計遅くなると。期間の利益、時間の利益を失するだけだから、もうこれ以上遅くして何をどうするんですかと僕思っちゃうんだけど。

【立石】期間の利益もあるんですけど、やっぱり機が熟さないと駄目なものもあるじゃないですか。

【本田】まあね。機が熟してないということですか、簡単に言うと。

【立石】機が熟してないというか、周りを攻め切れていないんだから、外堀を埋め切れてないという感じかもしれません。

【本田】それをじゃあやっぱりアウトリーチというか、エンゲージメントが徹底してないからやっぱりこうなっているというのが現状ということですか。

【立石】いや、それはない。じゃなくてですね、外堀を埋めるにもやっぱり順番があってですね、外堀をうまく埋めておかないと。

【本田】うん。

【立石】で、1回埋めておくと、ちゃんとあときれいに滑り出すのに、今ちょっと手間を惜しんだがために、何か片方脱線しながら走っているみたいな形はちょっと嫌かなと。

【本田】外堀を埋めるのにどれくらい時間かかるんですか、大体。大体。

【立石】いや、僕は年内には何とかしたいとは今思っている……。

【本田】年単位ではかからないけど、少なくとも半年くらいはかかるかなと。組織のことなので。

【立石】早ければ3か月とか4か月で、秋には何とかなる、エチオピアまでには。僕自身は、個人的にはエチオピアまでには何とかしたいとは思っています。

【本田】その辺で、いい塩梅でやっていただけたら、僕個人としてはうれしいなと思いますね。

【立石】だからまあ……。

【本田】はい。みませんでした。

【立石】とんでもないです。その点が多分皆さん、なかなか自分の組織じゃないのではっきり言えないところじゃないかと思います。

【加藤】すみません、今のお2人のやり取りを伺っていて、そうするとやっぱり一旦休止というよりは、スローダウンをして、ただし働きかけのメインといいますか、ぜひこういうことをやらなきゃいけない理由として、2023年を成功する、それに支援してもらいたいということをメインメッセージとして伝えるけれども、日本として、やはりインターネットを支えるグループを組織化したいということも同時に説明した上で、そちらのほうも、例えば今、12月と言いましたけど、今、スケジュールを区切るのは難しいかもしれないですけども、並行して検討するというようなことでよろしいんでしょうかね。前村さん、それはいかがですか。

【前村】はい。並行して検討するということで全く問題ありません。ありがとうございます。

【加藤】 そういう方向で、ちょっとこの文章を書き換えて、これは提案ですけども、書き換えて……。

【前村】 このオンザフライで書き換えようとしたんですけど、なかなかそうはいかなかった。今日明日に……。

【加藤】 そうですね。今みたいな趣旨をもうちょっと膨らませて、それで堀田さんからのコメントなんかもあるので、スケジュール的に、次回、3週間後になると思いますが、次回に最終的に方向、これは大きな方向転換にも取られる可能性があるので、フィックスすると。それまでにメール上なりでやり取りをするということではどうでしょうか。

【前村】 そうですね。はい、ありがとうございます。そのようにさせていただきたいと思います。

【加藤】 それでその場合に、重要な要素として、飯田様が今日お話しをされた、実行委員会か協議会かというものがもう少し、3週間の間に見えてくれば、それを支えるというか、サポートするということもおのずと分かってくるので、その場合に、そこをメインにしなごらという、そのメインの実態が分かってくれば、この活発化チームの立ち位置というのももう少し明確になって、その中で、継続検討というのがどういうことになるのかという議論ができるのかなと思いますがいかがでしょうか。

【前村】 私自身はそのように思います。

【加藤】 飯田さんからいかがですか。ぜひ活発化チームのこういう活動とうまく連動できればと思いますので、もちろん実行委員会の邪魔はしないし、むしろ一体としてできるようになれば一番いいんでしょうけれども、その辺いかがでしょうか。

【飯田】 いろいろありがとうございます。全くそのとおりでございまして、私どもの最初の、総務省の意見というよりは、もう私個人の意見と思って聞いていただいたほうが安全かもしれないですけども、恐らくそんなに違ってないと思うんですが、協議会なり実行委員会なりをつくったときに、この活発化チームからできてくる組織が中心的にサブスタンスで貢献していただきたいという思いで、平行作業で進んでいくつもりでございましたので、どっちを優先するかじゃない、両方必要なものだと思っています。

両方とも思ったよりスピードが、時間がかかっているというのも事実でございまして、だからといって、協議会づくりを始めるので、こっちを止めて、こっち優先にしましょうというふうにお話ししたつもりはなかったもので、誤解を招いたようだったら申し訳ありません。それと私どもの作業の遅れがそもそもの大前提ですので、それはもう深く、繰り返しお詫びをいたします。

とにかく協議会は、もうこれ以上遅れると、立ち上げ、やられなくなるので、もういよいよ声をかけるしかないというところで、総務省の問題として立ち上げ始めようとしています。これも、本来は役所が立ち上げるというよりは、みんなで立ち上がるというのが望ましいと思っていますので、やり方はまた御相談しようと思っていますけれども、そのときに、このチームが法人であったらやりやすいだろうという思いはあります。だけど、そうじゃなくても、マルチステークホルダーのコミュニティーとして、より大きなマルチステークホルダーの協議会なり実行委員会のコアとして支えていただくというのは、法人化していようとしていまいと変わらないと思っています。

なので、今のお話のとおり、平行で、かつ貢献していただくというところは、実は途中で変更したつもりもなくて、実を申しますと、正直に申し上げると、方針が転換されたのをもう一回戻しますというのも、実は我々、私はあまり認識していなくて、転換したつもりもなかったんですね。ただ、我々総務省の取組が遅れていたから、皆様が業を煮やして、こっち先にどんどん進めようと思われたのは、これはもうごく当然のことだろうと。

こちらも、いよいよ進めなきゃいけなくなったので、スピード感で何かまた逆にならないのかなという感じを与えているかもしれないなと思って、深く反省しましたが、決して方針を転換したつもりは実はなくてですね、両方ともやらなきゃいけないものを、ただ無理やり、特に法人化のほうは無理やりやるものではやっぱりないとも思っていました。そのタイミングのお話で、ある程度、＜聞き取り不能＞あると思いますので、そこは皆様の御判断で、今こそと思うときにしていただければいいと思っています。

唯一、協議会なりできて協賛をいただくのに別に法人化している必要があるからという思いは全然なくて、契約を結んだりするとすると法人格が必要だというだけであって、協議会内に、法人や個人や、いろいろな立場の方が集まっていたらいい、マルチステークホルダーで協議会に貢献をしていただくのに、そのために法人化していただくという思いではありませんので、そこは分けて考えていただいてもいいかと思っていますし、もちろん早く法人になっていただきますと活動はしやすくなりますので、ぜひ、これは一旦停止というよりは、スピードダウンはするにしても、引き続きの御尽力をお願いしたいと思っています。

ということで、今、最終的な結論は全く違和感がなく、元から私どもの考えていたとおりだと。お話だと思います。

【加藤】ありがとうございました、飯田さん。もう一つ本田さんから、総務省としては実行委員会に新設社団法人を招き入れるという意味ですか、ことはどうお考えですかということですが、いかがでしょうか。

【飯田】 社団法人になっていていただければ、お誘いしやすいですけども、まだ社団法人になっていなくても、活発化チームという看板でも構わないと思っていますので、皆さんに御参加いただくのは当然だと思っています。

【加藤】 ありがとうございます。まだほかに御意見等ございますでしょうか。本件、大分収束してきたので、さっき申し上げたとおり、前村さんのほうで少し説明を加えて、この文言を直していただくのをまた配付いただいて、同時に総務省さんのほうで動きがあると思いますので、そういうのを見据えて、次回、方針を確認するということがいかがでしょうか。

【前村】 皆さん、御議論ありがとうございます。言葉難しい、1つの言葉の捉え方がたくさんあるということがよくよく、改めて実感いたしましたので、注意深く合意形成をもっと綿密にやっていきたいと思えます。どうもありがとうございました。その中で、よく御理解いただいたと思ひまして、私もその方針で問題ないというのが大変ありがたい次第です。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

それじゃあ上村先生が参加されているので、アジェンダ1つ戻って、プログラム委員会の状況ですね。22年秋の日本でのイベントのお話を中心にお願いしたいと思ひます。

【上村】 そもそも先ほどの話と、この秋に予定している日本インターネットガバナンスフォーラムがどう絡むかというのも気になるころですが、その話は既にお済みなのかもしれませんし、時間もないので、準備状況について御報告をしますが、ちょっとすみません、私、自分でまとめたものがどこかなくなっちゃったので……。

プログラム委員会からの報告ということで、簡単に先日の会合までに決まったことを報告します。あまり大きなことは決まっておらず、7月5日に委員会の会合を開催して、まずテーマセッションの募集の状況について確認をしました。5日の段階では、もちろん締切り前でしたので、はっきりしたことは分かりませんでした。現時点で、現時点ではないですね、締め切った後の提案件数、4件ということです。現在、プログラム委員会の中で審査委員の方をアサインして、審査に向けた準備を進めていただいています。

それから5日の委員会に先立って、間に合わせるような形で、審査委員について選任をしました。御意見くださった方々には改めてお礼を申し上げますが、プログラム委員会の中から選ぶというのが大前提でしたので、なかなかうまくいかないところもありましたが、ステークホルダーのバランスを踏まえて、また利益相反の生じないようということで、4枠、8名の方に審査をお願いすることになりました。それから議長、ただし審査に直接は関わらない議長として1名の方に、審査全体の運営を担って

ただくことになりました。一応、名前は伏せていますけれども、必要であれば、お伝えすることは問題ないのでは……。問題あるかな。ちょっとそこについては、リクエストがあれば考えます。

なお、政府からは、総務省を1名としてカウントするという形で、どなたがということではなくて、コレクティブに1つの人格として審査に加わっていただくということです。これは昨年度も同様だったということなので、そのようにお願いをいたして御承諾をいただきました。

今後のスケジュールですが、7月24日以降に、遅くとも応募者に選考結果を正式に通知できるようにということで作業を進めていただきますが、これも審査委員の皆さんで、審査委員の中で、どういうスケジュールにするか具体的なことは決めていただきます。ということで、4件の提案があったということで、やれ一安心というんでしょうか、何とか形にはなるのではないかと期待をしております。

それで全体構成について、今回、10月28、29でしたか、27、28の木金の2日間の開催ということなので、ざっくりこんなふうに分けてみましたというのが3の全体構成です。オープニング、基調講演的なものプラスパネルのような、メインセッションのようなものをする。それから公募で募ったセッションが1、2、2つ入ると。2日目はその他、3と4のセッションと、それからIGF2023年に向けた地ならしのようなセッション、地ならしセッションと呼んでいますけれども、チュートリアルセッションなのか、IGFの用語で言うとニューカマーズセッションになるのか、どういう形にするのか分かりませんが、少し、IGFとは何か、インターネットガバナンスとは何か、インターネットがいかに関わりの身近にあるものかということが説明できるようなセッションを設けてはという話をしております。

ただ、ここはかっちり決めたということではなくて、各1時間ぐらいの、実質、賞味、セッション時間を設けてみようと思っておりますけれども、ギチギチには決めずに、大体こんなイメージということでそれぞれ準備をしようということになりました。当然、このイメージに基づいて審査をしていただくことになると思いますので、そういう参考に使うということだと思います。

それからプログラム委員会では、オープニングセッションというのかメインセッションというのか、その内容についてのアイデアをブレスト的にいただきました。DFFTや政府のデジタル化に関するようなテーマを、政府とか産業界だけではなくて、市民社会の構成員も入るような形で、ワイワイガヤガヤ議論してみてもどうかとか、メタバースやWeb3に象徴されるような、インターネットの新しい空間の中での自由の在り方を考えてみるとか、あるいはウクライナ紛争に端を発するような、新しい形でのインターネットの自由、あるいはインターネットがもたらす自由について議論してみるとか、そういったアイデアが今のところ出てきております。

まだ本日の段階では、どれにしますということも決め切れていませんし、それから1、2、3として挙がっているセッションのアイデアについても、まだ、正直言うとインセプションの段階で、アイデアとかプランのレベルにはまだなっていない状態です。そこについては、プログラム委員会のチェアとして、私がそれぞれ発案をなされた方に、もう少しヒアリングをして、肉づけをして、もう少し肉づけをした状態で、プログラム委員会で検討しようということを考えています。

取りあえず、御報告できることは以上だったと思いますけど……。はい、以上でございます。よろしくをお願いします。

【加藤】 どうもありがとうございました。何か御質問とかございますか。大分プログラム委員会のほうも、実際の活動に向けて動いていただいているように思いますが。御質問いかがですか。

それじゃあ、特になければ、プログラム委員会のほうから活発化チームに決めてもらうこととか、そういうものはもうこの時点ではないですね、今。

【上村】 具体的にはないんですけど、ただちょっと話をするといつも発散してしまって方向感が見えないのは、例えばコストが発生するものを考えるときに、誰にどういうタイミングで相談したらよいかみたいなことは、ちょっとそろそろ考えなければならぬと思っています。つまり会場を借りるとなったときにフィーが発生するわけですけれども、それをどうするのかとか、もう自動的に誰かがお勘定を取ってくれるということでもないと思うので、ちょっとその辺、そろそろ気にしなければならぬかなと思っています。

【加藤】 そこは前村さん、山崎さん、いかがでしょうか。今まである程度、前村さん、山崎さんのほうで御検討いただいていたんですが。

【前村】 大風呂敷を広げるわけにもいかないんですが、今まで、何かというと、感染症禍の前には報告会であったり、事前会合であったりというふうなもののオンサイトの開催に対して予算を取っておりましたので、その線で準備することは、これは大風呂敷というほどではないですけども可能です。それ以上に少し、今年は大きめにつくらなきゃいけないとかという事情があったとしても、私の今のところの感触としては、どうにか JPNIC で賄うことができるんじゃないのかなと思っているという、それくらいです。ちょっとそれ以降は、規模や何とか、何やかにや、あるいはハイブリッドで、実は配信にお金がかかるみたいなこともあり得ますので、少し検討して、心積もりさせていただければと思います。

【上村】 そうすると、今進んでいるぐらいの範囲であれば、驚かれることはないとか、そんなイメージでいいですかね。

【前村】 多分大丈夫だと思っています。そんな感じです。

【上村】 分かりました。ありがとうございます。なぜか前村さんの話を聞きながら思い出したんですけど、エチオピアの会議に行く人とか、あるいは行かないけど、IGF にオンラインで参加する人とか、そういう人たちの向けの、何というんでしょう、事前のチュートリアルとか、そういうものが、そういえばあったらよかったかもしれないなということに気づきました。

以前だと、事前会合とか報告会とか言っていましたが、事前会合というのが、IGF にオンサイトで参加する人たちが、皆さんはどういうところに御関心がありますかということを経験交換して IGF に臨もうというような位置づけもあって開催をしていたと思います。報告会というのが、実際に行った人たちが、それぞれの、何というんですか、テイクアウェイを持ち寄って、今回こんな感じだったねということを経験交換するような場だったと思うんですけど、もしかすると、ちょっと前回のプログラム委員会のときにはその話をしませんでした、もしかするとそういった、行く人向けのセッションとか、あるいは、ちょっとまだやりにくいかもしれませんが、行く気がある人、一緒に行きましょうみたいな、そういう方向づけというんですかね、何かそういうのができるとももしかするといいのかもしれないのと思っていたことを、すみません、先ほど思い出しました。

後半は全く言いつ放しなのですが、もしセカンドいただけるようであれば、少し前向きに考えてみてもいいのかもしれないと思っています。以上です。

【加藤】 それはむしろ、それじゃプログラム委員会の委員長である上村さんから、みんなに行きませんかとか、行きますかと聞いていただいてもいいんじゃないでしょうかね。

【上村】 ただ、私が行く予定が立たないので、ちょっとそういうのはやりにくい感じがするんですけど。

【加藤】 ど……。

【上村】 何というか……。ごめんなさい。はい。

【加藤】 どなたか、当然総務省の方はいらっしゃるでしょうけれども、それ以外の方で、JPNIC さんとか JPRS さんはいらっしゃるんでしょうかね。

【前村】 JPNIC としては、前村ですが、非常に重要なというのか、インターネットウィークというイベントが実はぶつかってしまっていて、そっちは現場に任せて私は IGF 行こうかなとか、山崎も IGF へ連れていったほうがいいだろうなと思っていますが、ちょっと今のところで確定というところまでには至っておりません。

【加藤】分かりました。飯田さんお願いします。

【飯田】ちょっとまだ分からないんですが、確かにそういうのは、去年もそういう機会があったらいいなと思ったんですが、コロナとかでいろいろあってバタバタしているうちにできないで終わってしまっただけなんですけども、実は東京のポーランド大使館も一生懸命、去年は広報をやってまして、すごい立派なビデオを作ったりしてまして、我々は一応、接触を受けて、いずれ皆さんの前で、ポーランド大使館としてもプレゼンしてねと言ったら喜んでいたんですけども、機会を失ったということがございました。エチオピアの在京大使館がどれくらいそういうのをやっているか分からないんですが、ちょっと聞いてみて、場合によってはエチオピアの準備の状況とか現地の案内とか、情報提供をしてもらえないか尋ねてみようと思います。

あと、コーディネートするのはあまり適当ではないと思うので、総務省のほうでどなたが行くか、いらっしゃるかを取りまとめることはないんですけども、情報として把握だけというのはもしかしたらできるとありがたいかもしれないので、ちょっとそこは、おかしくならないようなやり方ができそうであれば考えさせていただきたい。

【上村】以前だと、総務省ではなくて多分、我々というのがだれか分かりませんが、我々が行く人たちを聞いて回って、メーリングリストをつくったりしていたこともあると思うので、そういうことはできると思いますし、あと、例えば大学生とか若手、ユースセッション巻き込みたいと思っているような人たちに、一緒に行こうよと言えるといいよなと思ったりしています。お金のことはちょっと置いとくとして、お金を出してあげるということではなくて、1人では行けないけど、いろいろ文脈を教えてくれる人がいるんだっただけで行ってもいいかなと思う人がいるんだっただけなら、そういうことも考えられるかなと思ったんですけど、いずれにしても私がかかり思いつきで風呂敷を広げているだけなので、すみません、今日の段階ではこれ以上お話しすることがありません。

【加藤】ありがとうございます。エチオピアということで、前に飯田さんからとか、この場で、ブースを作って、日本としても、来年の活動をサポートするというお話がありましたが、それについては何かございますか。飯田さんに伺っていいのか。

【飯田】すみません、ありがとうございます。忘れてたっていうのも不謹慎ですけども、ぜひ、どなたか代表して申し込んでいただけるとありがたいと思って、今のところ総務省で申込みをする準備はしてなかったので、もし形式的に申込みを私どものほうで進めるのが妥当であれば、そういう形ができると思います。ただ、中身は恐らく、総務省で考えるよりは皆さんでコンテンツを考えていただいたほうがいいのかと思っております。たしか締切があったと思うので。

【加藤】今ちょうど出したんですけど、7月31日ですね。

【飯田】そうですか。

【加藤】早いうちに手を挙げないと場所を取られてしまうかもしれないというのがあるので。

【飯田】ぜひ、来年のホスト国でもでもあるので、少し何か展示できたらありがたいと思います。意欲がある方がいらっしゃれば手を挙げていただければ。

【加藤】山崎さん、手を挙げていらっしゃいますが。

【山崎】よろしいですか。

【加藤】お願いします。

【山崎】飯田さんに質問ですけども、山崎です。このヴィレッジブースはたしか制約があって、企業が宣伝に使ったりはできないと思っているんですけど、それは正しいですかという質問になります。

【飯田】私もうろ覚えなんですけど、たしか企業のビジネスコマーシャルには使えなかった気がします。たしか。ただ、例えば、何だろう、いろいろなソリューションとかコンテンツを紹介したときに、それがビジネス目的とどこまで言うべきなのかは、ちょっと微妙な問題でもあろうかと思しますので、もう少し、ちゃんと確認する必要があるかもしれません。

【山崎】多分、一番よいコンテンツは、我々がやっている活動そのものを紹介するということになりませよね。

【飯田】そうですね、そういうことができると一番望ましいかと思えます。

【加藤】1つは来年、日本で開催する場所とか都市ぐらいがもし決まっていれば、その紹介のビデオを流したりとか、日本の23年に向けての紹介というのは重要な項目かなという気はするんですけども。

【山崎】もう一つだけ飯田さんに質問させていただくと、7月31日までに開催地が決まったりする可能性は高いですか。

【飯田】先ほどお話ししたミッションが来るのが早くて9月になりますので、7月31日の時点で確定している可能性はございません、逆に。ですが、今お話にあったように、エチオピアの開催までにコンテンツを用意して流すとか見せるという意味では十分あり得ると思います。

【山崎】では申込みの時点では未定で申し込んでおいて、当日までに確定させて、中身をつくって展示することで何とかなるという理解でよろしいですか。

【飯田】そうですね、そこは恐らく場所を明示しなくちゃ申し込めないということはないと思いますので、来年の日本のIGFの開催地や、そこでのプライオリティを紹介するみたいな形で出すことは十分受け入れてもらえるんじゃないかと思います。

【加藤】手を挙げようとお考えの人はぜひ、何かそういうお話を風のうわさでは聞いているので、ぜひ調整の上、お願いしたいと思います。前村さん、手を挙げられたんじゃないですね。

【前村】違います。ございません。ミュートにしておいたほうがいいですね。失礼しました。

【加藤】じゃああと、プログラム委員会関係はこれでよろしいでしょうか。

【上村】あと、強いて言うとする、プログラム委員会、審査のことがスタートしましたので、そろそろ次の仕込みを考えたいと思っています。次の仕込みというのは、当日のロジに向けた準備のこととか、あとは、何だろう、テーマセッションや企画セッションのリファインというんですかね、実現に向けたワークがこれから発生するので、なかなか人手を、人手というのは知恵を出す人、それから実際に手を動かす人、併せて人手が必要です。どうやって増やすのがいいのか分かりませんが、この場にいる方にお誘いをするか、あるいはプログラム委員会に今から入ってくださるという方がいらっしゃるのであれば歓迎しますので、一緒に会議のメイキングをしてくださればと思います。アピールでした。以上です。

【加藤】どうも上村さん、ありがとうございました。

じゃあアジェンダの順に従って、次にユースの活動について。前回、募集案のような、考えていただくというお話があったと思いますが、これは山崎さんに伺ってよろしいのでしょうか。

【山崎】はい。今お見せしているように、何とかつくろうとしたんですけども、ちゃんと皆さんにお見せして議論いただけるというところまでたどり着いておりませんで、ちょっと申し訳ないんですけども、今後これを完成させてメーリングリストで、具体的にこういう内容で募集するということにさせていただければと思います。ちょっと間に合わず申し訳ございません。

【加藤】何か気になっていることとか、このグループのフィードバックが欲しいとかという項目がございますか。

【山崎】私一人でやっているのは、ちょっとチャーターに必ずしも沿っていませんので、何かこのグループをつくってやったほうがいいのかなとは思っておりますので、ちょっとその辺で声をかけさせていただくとか、公募するとかということも必要になってくるかなとは思っています。

【加藤】分かりました。今回の後、もう少しこれに肉づけしたものをこのグループのメーリングリストに流していただいて、これでいいでしょうかという形で聞いていただくということでもよろしいでしょうか。

【山崎】はい、そうでございます。

【加藤】何か山崎さんの件について、御質問とか御意見ありますか。

なければ、方向としては前回もう議論されているので、このユースのことについてはこれで終わりたいと思います。

次ですけれども、チーム会合の運営について。これは何か、まだありましたですかね。チャーターをアップデートしていただいたという点、これ前村さんに伺えばよろしいですかね。

【前村】そうですね、私から資料をお出ししています。このチャーター、僅かに4のaというところを変更したということです。前の版と差分が分かるようにしておくべきだったと今にして思っているんですけども、単純に、「活発化チームには議長（チェア）を置き、意思決定に向けた議論を促進し、ラフコンセンサスに至るまでの過程を支援する役割を担うものとする」と。「ものとすとする」と書いているけど、ちょっと「する」は1つ省いたほうがいいですね。というふうにしてチェアを置くということをチャーター上でうたうことにしないと、チェアを置けないだろうと思いました。

メーリングリスト上で若干議論していただいていますけれども、これよりも、何でしょうね、細かく、選出はどうするとか、一旦書き始めると、いろいろなものを書き続けなければいけないというところに陥るんじゃないのかと思いましたが、この今のドラフトでは、チェアを置くということを決めて、それ以外は意思決定のところ、4のbに従うということ以外に意思決定の仕方はないということなので、そういった形に収めると。したがって、チェアを置くというのも4のbに従って決めるし、チェアを変えるとか、なくする、なくするということはないかもしれないですけども、そういった移動に関しても、4のbで決めることにとどめております。

山崎さんが気を利かせて、前のものはこういうふうになっておりますと。「役職者を置かないフラットな構成を旨とする」となっておりました。以上です。これに関して、例えばもうこれでいいから決め

ちやおうよということかもしれませんし、もう少しこの辺を考えるべきではないのかという御議論があり得るかもしれませんとっております。以上です。

【加藤】ありがとうございます。何か御意見、御質問はございますか。

【上村】上村です。よろしいでしょうか。

【加藤】はい。

【上村】私も軽めでよいと思います。事情はいろいろだと思いますけど、活発化チームで決めたことなから、活発化チームで決めて、やめていただくようにすればよいぐらいのことが軽くていいかなと思うので。あんまり、何だっけ、解任のルールとか、そういうことを書き出す必要はないのではないかと思います。

ただ、ちょっと1点質問です。素朴に質問なので、純粋な質問なんですけど、このチェアは本当に議長のチェアですね。というのは、よくこういうチェアというのは、対外的にそのグループを代表する立場になったりすることが多いですけど、ここを見る限り、本当の議長だと思って読んだので、それもありだと思いますけど、そういうニュアンスでいいですか。

【飯田】ちょっとおっしゃっているニュアンスが分かりませんでした。

【上村】何だろう、ちょっと古い言葉しか出てこないんですけど、最高会議幹部会の議長というのは、幹部会の議長だけではなくて国家元首の役割もしたりすること……。

【前村】なるほど、なるほど。

【上村】なので、ここではそういう議長ではなくて、本当に内部の議事進行とかをつかさどる議長だなど。

【前村】そうですね、ここは実は、ちょっと惜しむらくは堀田さんがいらっしゃって、堀田さんが最初にチェアを置きましょうと言ったときに、どういうふうな心持かというところを聞いてみたかったなと思いましたが、これは活発化チームの議論で議長を、チェアリングをしてくださる方という意味合いで書いております。ですが、恐らくは活発化チームを代表する方というふうなこと、権能、権能じゃないですね、機能も負われるんじゃないのかなと思うんですけど、そうだったとしたら、ちょっと違和感ありますか？ 上村さん。

【上村】いや、そうだとすると違和感はないですけど、それを担っていただく方には大変だと思うので、今のままでもよいかもしれないと思っております。純粋な質問でしたので。分かりました。

【前村】分かりました。

【加藤】あとよろしいでしょうか。それじゃあ一応、この文言も7日間の結果を見て、これで終わるといふことで。実積先生、お願いします。

【実積】すみません、実積です。今の上村さんの質問とかぶるところあるんですけど、このチェアがいわゆる普通の議長をやるということになれば、活発化チームの代表は別に何か選ぶということなんですか。この案ではというか、前村さんに対する質問になると思うんですけど。

【前村】いえ、代表者を選ぶと書いてあれば、代表者を選ぶんだと思うんですけども、書いていないということは、その意図はありません。

【実積】ということは、外から活発化チームとして意見を言うとか、しゃべる場所、絶対出てくると思うんですけど、そのときは議長がしゃべるということなので、先ほど上村さんが言われた、国家元首じゃないかもしれないけど、声を代表するのは、要はスポークスマンとしての役割も担うということなんですね。

【前村】議長しか、そういう活発化チームの中の、1人選ぶとしたらこの人というのがいない以上は、そういう機能を帯びてしまうんじゃないかというのがさっき私が言ったことです。

【実積】そうすると、さっきの国家元首的な意味合いというか、総書記みたいな、書記なんだけど、外部から見たイメージは議長ということですね。

【前村】そういうことになってしまうということだと思います。

【実積】分かりました。了解です。

【加藤】あとよろしいでしょうか。

それじゃあ次は、アジェンダアイテムとしてはこれだけですかね。今日の宿題事項の確認だったですかね、あとは。

【前村】加藤さん、そういうわけで、本件チャーターに関しては、メーリングリスト上でも若干質問があり、それに対してお答えをしまして、今の御議論もあった中で、これが取りあえずラフコンセンサスに至って、これから7日間、ラストコールということでもよろしいでしょうか。

【加藤】私はそういうふうには理解しましたけど。

【前村】それと同時に、加藤さんがチェアだというふうに言うことも、同時にここでアグリーしたほうがいいんですかね、ひょっとして。どっちでしょうね。これまた3週間待つというような話でもないような気がするということなんですけど。あるいは既に加藤さんにチェアをお願いするというのには既に決まっているというふうに考えることもあるのかもしれないですが、その辺、スツとこうだよというお考えがある方はとても助かります。上村さん、ありがとうございます。

【上村】ちょっと私、今の点、少し気になったんですけど、思い出しても思い出せないのです。今の議長の方をお選びしたときにはどんなプロセスだったんですか。もし略式だったのであれば、この際なので、正式で、暫定決定したことを本決まりにするというのがあってもいいかと思いました。けど、既に本決まりでアグリーされているんだったらわざわざする必要はないと思います。

【前村】そうですね、あらかじめそこら辺をちゃんと調べて、こうだったからこうしようというふうに言えばよかったですけども、今回はこの場で、私の記憶の範囲で言うと、こういう活発化チームの別の会合の場で、チェアを置くようにしようと言って、チェアはどなたがいいですか。加藤さんという声が上がって、加藤さんもお引き受けいただけるということで、そこに異論がないというところまで確認したというのが前回のプロセスだったと思いますが、それをラフコンセンサスだとしてラストコールをしたというところまではなかったと思います。

【上村】ただ、その議論について、議事録が回って異論がなかったわけですね。

【前村】そうですね。

【上村】そういう意味ではわざわざ2度する必要はないような。

【前村】2度する必要はないということかもしれないですね。そこで人選は済んでおり、今回チャーターを後追いながら対応したと。そういうことになると。それで皆さんよろしければ、よろしいじゃないかと思います。

【加藤】ありがとうございます。そういうことですね、それじゃ。

あと何か、アジェンダで付け加えることとかございますか。

なければ今日の宿題事項の確認ですが、ぜひ飯田さんのほうから、今回御発言いただいたことについては、特にこの実行委員会の動きについて、適時、教えていただければと思います。秋イベントについては、今プログラム委員会からは特に御質問とかなかったので。

【上村】すみません、もしお時間5分でもいただけるなら。

【加藤】 もちろんです。どうぞ。

【上村】 先ほど、非常にふわっとした形でしか案が出ていませんけど、3つ案があると申し上げまして、それについて皆さんの、何というか、率直な感想でもなくても、コメントなどいただけるとありがたいと思うんですけど、ちょっと私がえいやっとまとめたものを今チャットに送りますので、そちらを御覧いただけますでしょうか。先ほどアイデア3つあると言いましたけど、1つは先ほど言ったように DFPT や政府のデジタル化について、やろうとしているところがまだふわっとしたところなんですけど、現在進んでいる取組を取り上げて、政府や経済界や市民社会の構成員の皆さんを交えて、多角的に問題点を議論するというのが1つです。

2つ目が、Web3 やメタバースから見る今後のインターネットのトレンドを読むということで、例えばということで、Vチューバーの人に登壇してもらって、話をしてもらって、その話をネタに新しい自由の問題を考えようとか、そういうことをしてはどうかということだったと思います。IGFの文脈だと、エマージングテクノロジーを考えるというものに相当するだろうと思っています。というのがアイデアの2つ目です。

3つ目が、ウクライナ紛争後、あるいはコロナ後のインターネットの自由というもので、例えば紛争の当事者双方がお互いに情報を発信して、今や真実がどこにあるか分からない状況にあると。一方でその情報を遮断しようとしても、いろいろな技術で迂回できてしまう。こういった状況では、インターネットにアクセスできるかどうか、本当の真実を知ることができるかどうかを分けるということで、言ってみたら、こういう問題の中に、これまでのインターネットガバナンスの議論が集約されているのではないかとということで、そういうアイデアの3つが出ているんですけども。

ちょっとこれだけのまとめで何か言えと言われても難しいかもしれませんが、であるならばこういうのはどうですかとか、こういう話をここに入りますかという形でも構わないので、今いる方々から何かリアクションをいただけると助かります。いかがでしょう。

なかなかこれで……。

【加藤】 あまりないですかね。何か3つがそれぞれ特色があって、どれも興味深い内容だなと思うんですけども、私なんか。それでオープニングセッションと、ちょっとチュートリアル的に DFPT という話を入れるとかなると、アレンジをして、1つだけじゃなくやるという方法もあるのかななんて思いながら、3つのテーマを拝見していたんですけども。

【上村】 ただ、これだと3つ……。

【加藤】どれも重いですか。

【上村】なかなか大変じゃないですか。どうですか。

【加藤】最終的に、スケジュール的には4つがテーマとして決まれば、時間的にはちょうどいいんですね、この配分としては。4つがもし3つになったりすると、そこは違ってくるという感じですね。

【上村】そうですね、この中から2つとか、それ以外のものも入れるとか……。

【加藤】そういうことはあり得る……。実積先生、お願いします。

【実積】素人感想なんですけど、アイデア1とアイデア3だと、知らない人は分からないだろうと思うんですね。2だと、何となく言葉は分かっているので、ちょっと覗いてみようかなと入りやすいと思うんですけど、DFFTとか、それから3番目は何だっけ……。コロナ後のインターネットの自由。インターネットの自由という言葉が多分知らない人がいっぱいいるというか、何だそれはと思っている人ばかりだと思うんで、普通はね。このコミュニティーの外の人。そうすると、どこにフォーカスを置いて今回イベントやるかによって大分移動するなと思いました。

我々というか、関係者の議論を深めようというなら1と3なんでしょうけど、目的として、素人を呼び込むのであれば2にしておかないと引かかってこないだろうなという感じです。その辺り、今回の目的というか、どっちを主にしているんですか。特にオープニングセッションというのは。

【上村】それは、それぞれアイデアをお出しになった方が違う目的を設定されていると思いますけど、Web3やメタバースだと、やはり今までリーチできなかった人にアピールしようという、裾野を広げようということが大きいと思います。それから私としては日本発……。それもアイデア……。

【実積】いや、それぞれセッションを作った人にはあると思うんですけど、セッションを組み合わせるいくのがプログラミング委員会ですよね。プログラミング委員会としては、今回のプログラミングの意図というのは、この冒頭セッションでは何の目的というふうに設定しておられるんですかという質問です。

【上村】すみません、それにはすぐには答えられないですけど、何なのか……。

【実積】それによって、1と3がいいのか、2がいいのか、僕的には変わってくるなと思いました。

【上村】そうですね、ちょっとその辺は、割と活発化チームレベルで何か方向づけがあるのかなと思っていたので、私はあんまり考えていませんでした。

【加藤】 皆さん声がないので。アイデア 3 を実は私が少し申し上げたんですが、むしろ一般の人にもウクライナとか、ロシア対ウクライナ、実は情報戦だとか、この辺のことはみんな、ニュースや何か報道でも知っていて、それが今、本当にどうなっているのか。インターネットというものがどう使われているのかとか、あれだけ破壊されてもウクライナでどうしてつながっているのか、どういうインターネット事情なんだとか、そういうのはむしろ一般の人に興味があるのかなと。むしろ呼び込むということで、オープニングセッションで、広い人たちに、これだけ身近にインターネットの問題があるんだよということにはいいテーマかなと思ったんですが、その辺ちょっと、印象は違うかもしれないですね。

【実積】 すみません、実積よろしいですか。

【加藤】 実積先生、ええ。

【実積】 趣旨がそっちなら、多分「インターネットの自由」という言葉は外したほうが分かりやすいかなと思います。要は壊れたインターネットが何でつながっているかみたいなお話だと分かると思うんですけど、何となくインターネットの自由というと、分からないだろうなと思いました。

【加藤】 ちょっとそういう意味では、これはプログラム委員会でも、書き方はあれですけど、まさにどうつながっているのかという話と、もう一つは、インターネットがあるからそれをロシアの中にも本当に戦争の実態を知ってもらえる人がいるとか、そういうインターネットを使って今、いろいろな情報のやり取りができるということをいろいろな意味で試されているのがこの戦場だと思うんですね。そういうのを紹介しながら、これだけインターネットは重要な問題だということを知ってもらえるようなセッションになると、すごく一般の人にもいいのかなと思いますので、ちょっと書き方はその辺、工夫していただくというのも 1 つかなと思いました。

【上村】 すみません、私がつたないまとめで申し訳ありませんでした。ちょっとそういう意味では、今回は、あまり専門的な話を突っ込もうということではなくて、入り口を感じてもらおうとか、入りやすいようにとか、そういうことが多分目的だったような、だったようなというか、そうすべきなんだろうなという気がしました。もし、特にこの場でということがなければ時間を延ばすのもあれなので、私からは以上ということで。もう少し練ったものが次の 3 週間後に出るかもしれないということで、皆様お待ちください。

【加藤】 ありがとうございます。実積先生もよろしいでしょうか、それで。

【実積】 もう僕はないです。

【加藤】 ありがとうございます。

それじゃあ Todo の確認は、NRI の組織枠組みについては前村さんのほうでちょっとドラフトを書き換えていただいて、次回の意会議で大きな方向性を決めていただくということによろしいですね。

【前村】 はい。

【加藤】 ユースについては、先ほどの募集要項をアップデートしていただくと。次回までにドラフトができれば、このメーリングリストで回していただくということですね。

それからチーム会合の運営についてというのは、先ほどのチャーター案がラフコンセンサスにかかって、7日間のラストコールに今あるということで、これは、Todo はそれを確認するという事かなと思います。

次回ですけれども、このままいくと 8月1日、月曜日かなと思いますが、それでよろしいでしょうか。

じゃあ一応、これで Todo も確認したと思いますが、何か落としていることございますか。どなたか、あと最後3分間ありますけれども、言い残したこととかあればお願いしたいんですが、いかがですか。

【山崎】 すみません、山崎です。確認させていただきたいんですが。

【加藤】 お願いします。

【山崎】 秋イベントのほうの Todo としては、このアイデア 1 から 3 については上村さんから資料が出てくるのを待っていただければいいと認識しているんですが、ほかに秋イベントに関して Todo というのはありましたでしょうか。

【加藤】 特に活発化チームではなかったですね。

【上村】 今の Todo はこの今日の会議の Todo ということですね。

【加藤】 この会議の結果、Todo。

【上村】 結果としてはないのではないのでしょうか。

【加藤】 分かりました。

【山崎】 ありがとうございます。

【加藤】 兼保さんお願いします。

【兼保】兼保です。ちょっと私が理解していないだけかもしれないです。さっきの事前イベント、IGF2022、今年のエチオピアの事前イベントについては結局どうなったんですって。事前会合はやる、やらない。それを誰かが考える、そこは決まっていない？

【加藤】これは恐らくメーリングリストで私が行きますよというようなことをやり取りしていただいて、できれば事前に何か情報交換をして、飯田さんからはエチオピアの大使館に聞いていただくということもあったので、メーリングリストベースでいかがでしょうか。

【兼保】なるほど、分かりました。

【加藤】そういうことでよろしいですか。飯田さんもそれでよろしいでしょうか。

【飯田】はい、お願いします。

【加藤】それじゃあほかにございませんか。もしなければ、長い間、今日も大変ありがとうございました。また3週間後によろしく願います。

じゃあこれで終了とさせていただきます。ありがとうございました。

以上